令和3年 6 月 7 日

2021 年度「自立援助ホーム支援助成」事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人ベェルシバ
子ども自立支援センター 自立援助ホーム Tam tam 寮
代表者・役職名 氏名 黒澤 詠子 理事長

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書（精算報告書以外）は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真（2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します）を添付して下さい。

1. 申請事業の名称

物置設置事業

2. 自立援助ホームの概要（創設の経緯、創設時期＝法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで）

家庭に戻れない子供たちのお手伝いをしたいと考え 2016 年に創設しました。家庭の雰囲気を大切にし、衣食住を共にしながら、子どもたちの心に寄り添い、生活、就労、生きていくことを支援しています。平均 4～5 名の入居児童がいます。

3. プロジェクトの目的とその背景（※応募申請書に記載のものでも可） 250文字程度まで

様々な災害などが想定されている現在、有事の際に入所児童の安全な生活を守るため、食料はじめ様々な物資を安全に保管しておける物置を当ホームの敷地内に設置し、災害などに備えます。

4. プロジェクトの内容（※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可） 300文字程度まで

特定非営利活動法人ベェルシバが緊急時のための物資、食料を安全に保管することが可能な物置を法人敷地内に購入して設置して、コメや食糧などを備蓄し災害などに備えるとともに、退去児童が預かっていて欲しいと残していった荷物などを、戻ってきたときに渡せるように安全に保管できるようにします。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

物置を設置させていただいたことにより、備蓄できる食糧の量が飛躍的に増加しました。また、昨年退去した児童から「しばらく預かっていてください」と頼まれていた荷物は今まで相談室の片隅に置いていましたが、倉庫があることにより、安全に保管することができています。笑顔で荷物を引き取りに来てくれる日を楽しみにしています。断熱物置なので食品の貯蔵性も良く、災害備蓄用の食品も安心して保管できています。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

せっかく助成いただき設置させていただいた物置ですので、末永く使えるよう大切に使わせていただきたいと考えております。まだ開所から 5 年目のホームですが、今後は OB への自立支援、アフターケアなども件数が増えていくことと思います。荷物を多く抱えて退去することが困難な児童に、安心して荷物を預けていけるような活用方法を展開していきたいと考えております。

7. 参考資料：プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。